

寄り道研究所 NIGHT FLIGHT SPECIAL

日本には 4158 兆円もある。それなのに、なぜ？

中級レベル

「4158 兆円ある」だけでは、豊かさは分からない

日本には 4158 兆円もの資産がある。

そんな数字を見たら、

「それなら、日本はものすごく豊かな国なんじゃないの？」

と思うのは自然なことです。

ところが、ここで一つ疑問が出てきます。

これほど大きな資産があるのに、

なぜ私たちの暮らしには、それほどの豊かさを感じないのでしょうか。

今回は、この「？」を少し詳しく考えてみます。

まず「資産」と「現金」を分けてみよう

たとえば、ある家族が、

家 3,000 万円

土地 2,000 万円

預金 500 万円

を持っていたとします。

合計すれば、

5,500 万円の資産

があります。

では、この家族は今日 5,500 万円を自由に使えるでしょうか。

もちろん違います。

家や土地を売ればお金になるかもしれませんが。

でも、今日の夕食を買うために家の一部を切り取ってスーパーへ持っていくことはできません（笑）。

ここで大切なのが、

「持っている財産」と「実際に動かせるお金」は違う

ということです。

ストックとフロー

経済では、この違いを考えるときに、

ストックとフロー

という言葉を使います。

難しそうですが、考え方は簡単です。

ストック

ある時点でどれだけ持っているか。

たとえば、

貯金残高

土地

建物

株式などの資産

です。

フロー

一定の期間にどれだけ入って、どれだけ出ていったか。

たとえば、

給料

会社の売上

家賃

買い物

税金

などです。

水にたとえるなら、

ストック＝水槽にたまっている水

フロー＝水道管を流れている水

と考えると分かりやすいでしょう。

水槽が大きくても、水が流れなかったら？

ここが今回のポイントです。

ものすごく大きな水槽があったとします。

しかし、水道管が細かったり、途中で詰まっていたりしたらどうでしょう。

必要な場所まで水が届きません。

日本経済も似ています。

巨大な資産があったとしても、

企業 → 設備投資

企業 → 取引先

企業 → 給料

家計 → 消費

という流れが弱ければ、資産の大きさがそのまま生活の豊かさにはなりません。

だから、

「いくら持っているか」と「どれだけ回っているか」は別の問題

なのです。

では、お金が動くと何が起こる？

たとえば、ある会社が新しい工場を建てることにしたとします。

会社が 100 億円を銀行の口座に置いたままなら、その 100 億円はそこにあります。

ところが工場を建てれば、お金が動き始めます。

建設会社へ。

機械メーカーへ。

部品メーカーへ。

材料メーカーへ。

電力設備へ。

物流会社へ。

そして、そこで働く人へ。

働く人が給料を受け取れば、

スーパーで買い物をする。

レストランへ行く。

家を借りる。

車を買う。

旅行へ行くかもしれません。

すると、

企業のお金が、別の企業や家計へ流れていきます。

これが経済の循環です。

でも「お金が動いた」だけでも足りない

ここでもう一段考えてみましょう。

工場ができて、周辺企業の売上が増えた。

それだけで、

「日本経済は復活した！」

と言えるでしょうか。

まだ早いですね。

材料費がものすごく上がった。

電気代も上がった。

人件費も上がった。

すると、売上が増えても会社には十分なお金が残らない場合があります。

だから次に見る必要があるのが、

企業に利益が残ったか。

そして、その利益が、

給料

設備投資

研究開発

などへ回ったかです。

つまり私たちが探しているのは、

お金が一度動いただけではなく、次へ、さらに次へと動いていく状態

なのです。

日本復活の「循環」を考えてみよう

とても簡単にすると、こんな流れになります。

企業が投資する

↓

工場や設備が作られる

↓

周辺企業の仕事が増える

↓

企業に利益が残る

↓

給料が上がる

↓

家計の消費が増える

↓

企業の商品が売れる

↓

企業がまた投資する

この輪が何度も回れば、

経済全体のお金の流れが太くなっていきます。

これが今回、NIGHT FLIGHT で探している

「日本のお金の血流」

です。

しかも、お金は日本国内だけを回っているわけではない

もう一つ重要なことがあります。

現在の日本企業は、日本国内だけで仕事をしているわけではありません。

海外に工場を持つ会社もあります。

海外企業へ投資している会社もあります。

海外で商品を買っている会社もあります。

つまり、お金の流れは、

日本 → 世界

だけではなく、

世界 → 日本

にもあります。

海外で稼いだ所得が日本へ戻る。

海外の投資家が日本企業へ投資する。

世界の企業が日本に工場を造る。

こうした動きも、日本経済のお金の流れの一部です。

だから 4158 兆円という一つの数字だけでは、日本経済の姿を全部見ることはできません。

 では、何を見ればいい？

ここまで来ると、最初の疑問への答えが少し見えてきます。

日本復活を観察するなら、

「資産はいくらある？」

だけでは足りません。

たとえば、

企業の設備投資は増えた？

企業の利益は増えた？

給料は増えた？

家計の消費は増えた？

海外から日本へ資金が入っている？

そのお金が次の投資につながった？

こうした数字も一緒に見る必要があります。

 **4158 兆円は「出発地点」**

最初の質問へ戻しましょう。

「日本には 4158 兆円もある。それなのに、なぜ？」

4158 兆円という巨大な資産額は、日本を見るうえで大切な数字です。

しかし、それは、

日本経済の答えではありません。

むしろ、

「では、その巨大な資産はどう動いているの？」

という次の疑問を生む数字です。

だから今回の NIGHT FLIGHT では、

資産の大きさ＝ストック

だけではなく、

お金の流れ＝フロー

を追いかけます。

そして、その先にある、

設備投資 → 企業利益 → 賃金 → 消費 → 次の設備投資

という循環が本当に太くなっているのかを見ていきます。

🌟 今回のポイント

4158 兆円ある＝みんなが 4158 兆円を自由に使える、ではありません。

大切なのは、

「日本はいくら持っているか」だけではなく、

「そのお金が、どこへ流れているか」。

資産が動き、

企業へ。

工場へ。

働く人へ。

給料へ。

消費へ。

そして再び投資へ。

この循環が太くなって初めて、

「資産の大きさ」が「暮らしの豊かさ」へ近づいていく。